

コラム

高等学校の普通科改革の動向について

これからの高等学校には、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等による、急激な社会的変化が進む中、生徒に Society5.0 を生き抜く力を身に付けさせるとともに、新たな社会をけん引する人材や地域を支える人材の育成につなげていくことが求められています。

普通科においては、これまで、主に大学等への進学を希望する生徒が、国語や数学などの普通教科を中心に学習を行っており、生徒の多様な進路希望の実現に向け、各高等学校がコースや類型を設けたり、単位制を導入したりするなどの工夫も行いながら、教育活動を進めてきました。

一方で、「教育内容が一斉的・画一的で、学習意欲が高まる内容になっていない」「受験対策を重視しすぎるあまり、受験に最低限必要な科目以外について、真剣に学ぶ動機を低下させている」等の課題が挙げられています。こうしたことから現在、国において、文系・理系の類型にかかわらず様々な科目をバランスよく学ぶことや STEAM 教育[※]の推進、地域社会や高等教育機関との協働による教育の在り方などについて、検討が行われています。

本県においては、こうした国の動きも注視しながら、普通科において、グローバル化に対応した教育活動や地域と一体となった教育活動の実施、生徒会活動や部活動の活性化等を進めながら、将来の職業を見通した特色あるコースや類型の設置、インターンシップの充実等について検討を行うこととしています。

※ Science(科学), Technology(技術), Engineering(工学), Art(芸術), Mathematics(数学)等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育